

第27回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年4月13日（火）18：00～19：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

安藤 宏 危機管理防災部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 埼玉県における「まん延防止重点措置」の公示を行うことに係る要請について

- 感染状況悪化の兆しがあるならば早く区域を決めて重点措置を行う用意をすべきと考える。（岡部委員）
- 感染力が強いとされる変異株が確実に増えてきている。大阪や神戸は実行再生産数が高く、上がり始めると一気に上がる。変異株は若年層であっても重症化しやすい傾向があるので格段の注意が必要。（川名委員）
- ステージ分類に従った対応は従来株の疫学情報に基づき作られているので、変異株の感染スピードが従来株よりも早いことを考えると、これまでの対応では後手に回る可能性がある。（川名委員）
- 大阪の現場を見ると、第3波の時は2カ月くらいでピークを迎えているが、今回は数週間でピークが来ることが想定されるので今の内から対応を考えておくべき。（竹田委員、金井委員）
- 40代～50代の重症患者は高齢者と比較し、医療に対する負荷が非常に大きくなることから、G.W.前の要請を検討すべき。（川名委員、坂木委員）
- 自粛疲れもあり、言葉の持つメッセージ性が弱くなっている。重点措置を発出したとしても、どの程度プラスの効果があるか考えなければならない。（讃井委員）
- 若者のストレスを考えると抑圧・抑制を継続するとマイナスに働くのではないか。（坂木委員）
- 東京が先にまん延防止等重点措置を発出したことを踏まえ、今後1週間で密にモニタリングすべき。（光武委員、讃井委員）
- まん延防止等重点措置の要請を検討する段階に入った。（委員一同）

【県の対応】

- 県内の感染状況、委員の意見を踏まえ 新型インフルエンザ等対策特別措置法第31条の4第6項に基づくまん延防止等重点措置の公示を行うことに係る要請について決定した。（4月15日開催第47回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。）

イ 飲食を主とする店舗におけるカラオケの利用自粛について

- カラオケでの感染リスクは高いので、家族内の高齢者に対して「いかな
いで」と働きかけをするべきである。（光武委員）
- 重点措置については、インパクトのある措置を講じるべきではないか。
特にカラオケでのクラスターの報告が多数あり、明確なリスクが分かっ
ている以上、強いメッセージを出すべきではないか。（川名委員、金井委員）